

「最後の別れ」に潜む危険…棺に顔を入れないで！ 対策はできるのか、理解しておくべきこととは

2023年9月23日 12時00分

ひびき
棺の中にいる大切な人に最後のお別れを告げようとのぞき込む。自然なことだ。しかし、これが危ないという。消費者庁は遺体の腐敗を遅らせるために棺内に入れたドライアイスが気化し、二酸化炭素（CO2）で中毒死する恐れがあると注意喚起した。「葬儀に潜む危険」の背景とは。（木原育子）



危険な状態を再現する職員 = 東京・霞が関で

「棺内は高濃度の CO2 が滞留していることを知ってもらいたい」。21 日、消費者庁の庁舎で、阪口理司・同庁消費者安全課長が呼びかけた。別の部屋には、新調した棺が。国民生活センターの職員らがどういう状態が危険か再現していく。「こうやって棺に顔を近づけると…」 「ここから二酸化炭素の塊が出て…」

同庁によると、2020～21 年、宮城、宮崎、沖縄各県で、自宅や葬儀場で、棺内に顔を入れたり、棺の小窓を開けたそばで意識不明で発見され、3 人が亡くなった。いずれも遺族が寝ずの番（線香番）をしている時間帯に発生。周囲に人がいない中で、故人とゆっくり話をしている際に起きた事故と推測される。

全日本葬祭業協同組合連合会（全葬連）の担当者は「18 年にも青森県の住宅であり、県警から相談があった。それをきっかけに葬儀の際は換気を心がけるよう加盟する葬祭業者に呼びかけたが、その後も発生したようだ」と話す。

◆20 分後、「即時の意識消失」レベルに

それにしても、それほど危険なのか。国民生活センターが実施した実験によると、棺に通常の計約 10 キロのドライアイス 4 個を置いた場合、20 分後には棺内の CO2 濃度が「即時の意識消失」とされる 30%に到達。4 時間後にさらに上昇し 90%に達した。

CO2 は空気と比べて 1.5 倍重く、低い所にとどまる。この性質から、花を手向けるため棺を開ける際も、通常は棺内の底の部分にとどまり、換気をよくしていれば高濃度の CO2 を吸いこむ危険性は少ない。

国内のドライアイス業者でつくる「ドライアイスメーカー会」会員会社日本液炭の石井孝征さん（46）は「濃度が 1.5%を超えると長時間その場にはいけないと国の基準で定められている。工場での作業中は濃度計をつけて安全管理には注意している」と語る。

実際、同庁の事故情報データベースには統計が始まった 09 年から計 43 件の報告がある。葬儀だけでなく、16 年にはワンボックスカーでドライアイスを搬送中に呼吸困難となり 60 代の男性が亡くなったケースも。凍傷になったり、ケースやペットボトルなどの密閉容器に入れて、破裂してケガをした事故もある。

- ・ 朝日新聞デジタル

棺に顔を入れないで ドライアイスによる CO2 中毒で亡くなる危険も

大村美香 2023 年 9 月 21 日 22 時 05 分



棺
の中をのぞき込む、事故のイメージ=消費者庁・国民生活センター提供

消費者庁と国民生活センターは 21 日、葬儀で遺体を保冷するドライアイスから発生した二酸化炭素による中毒死が疑われる事例があるとして、再現実験の結果を公表した。故人との別れの際に棺(ひつぎ)の中に顔を入れないよう、呼びかけている。

消費者庁によると、死亡事故は 2020 年と 21 年に宮城、宮崎、沖縄の 3 県で計 3 件起きた。2 件は自宅や葬儀場でドライアイスを敷き詰めた棺の中に顔を入れた状態で発見され、1 件は棺の小窓を開けたそばで倒れていた。詳細は不明だが、いずれもドライアイスによる二酸化炭素中毒が疑われるという。

国民生活センターでは、棺に人形と 10 キロのドライアイスを入れ、内部の二酸化炭素濃度を測定する実験をした。

開始から 20 分後には、二酸化炭素濃度が、ほとんど即時に意識消失するとされる 30%を超えた。4 時間後には 90%前後で一定となった。

棺のふたを開けると、直後に濃度は約 90%から約 60%に下がったが、約 50 分後にも 30%以上を維持していた。二酸化炭素が空気よりも重く、棺の中にとどまりやすいためとみられる。

事故の背景には、葬儀は非日常的で、ドライアイスが気化して二酸化炭素が充満していることの危険性が遺族らに認識できていない状況があると考えられるという。

消費者庁と国民生活センターは「棺の中には高濃度の二酸化炭素がたまっている。吸い込まないように、安置されている遺体にお別れを言う際には棺の中に顔を入れないで」と呼びかけている。また、室内の換気を十分にし、通夜から告別式の間には寝ずの番をする時には、万が一に備えて複数人で見まもるようにとしている。

万一気分が悪くなったら、すぐに棺から離れ、異常があれば直ちに 119 番通報するよう求めている。(大村美香)